

○ 岩見沢市（南光園処理場）は、下水汚泥を活用し、脱水肥料（水分約80%）「スーパーゴールドユーキ」を製造。

国内資源の種類

- ・ 岩見沢市南光園処理場下水汚泥

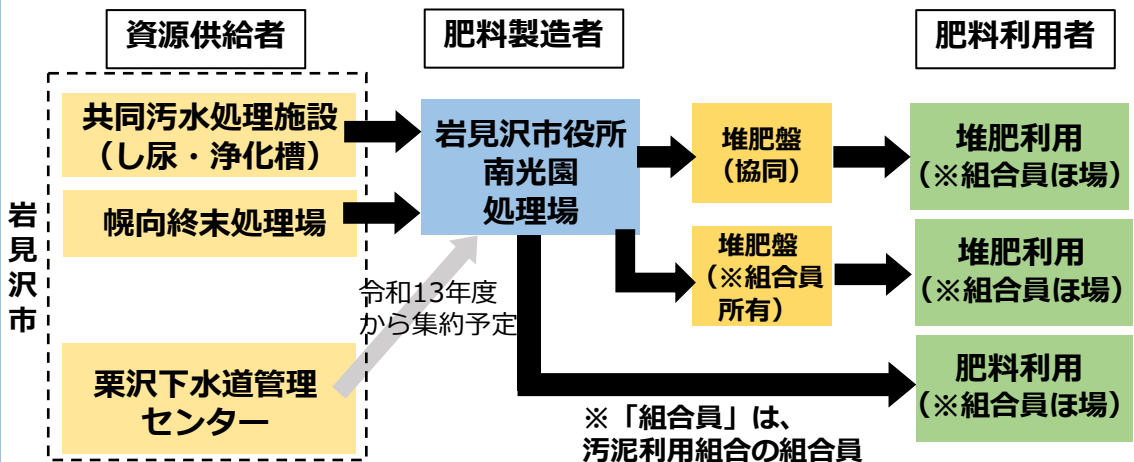
作物

- ・ 稲
- ・ 麦
- ・ たまねぎ 等

肥料生産体制の変更

- ・ 汚泥利用組合員による堆肥盤築造や散布機導入を踏まえ、老朽化した乾燥施設の更新をせず、令和8年度から全量脱水肥料での運用を開始。

主たる取組主体と肥料利用までの流れ



取組の経緯・内容・成果（見込み）

- 取組の経緯
- ・ 1978年頃から汚泥肥料の供給を開始。当時は下水道普及率も低くごく少数の農業者により全量農地還元。その後下水道の急速な普及に伴い、汚泥生産量が増加し全量農地還元が困難となったが、汚泥利用組合の発足、周知活動や散布支援など利用を推進。
 - ・ 2013年頃から再び安定的に全量農地還元。市は、汚泥肥料の運搬・散布支援等の費用を支出しても産廃コストが半減。
- 取組の内容
- ・ 下水汚泥肥料を組合員へ無料で配布（運搬・散布を市が支援）。
 - ・ 製造した肥料は、そのままの肥料利用のほか、稲わらや麦稈等と合わせて堆肥の原料や堆肥の腐熟促進剤として利用。
- 成果（見込み）
- 成果例：脱水肥料を利用した自家製堆肥を散布し、水稻で特別栽培農産物（化学肥料9割、化学合成農薬5割節減）の認証取得。現在更なる節減に向け検討中。

今後の課題・取組

- ・ 近年、生産可能量の倍近くの要望。
- ・ 下水道広域化推進総合事業実施。（令和3年から令和12年 汚泥処理設備の改築・更新）
- ・ 令和8年度から脱水肥料のみの生産に移行。



堆肥盤



脱水肥料